

公表:令和5年2月21日

事業所名 西宮市立北山学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			利用定員は30名。指導訓練室、集会室ともに基準を満たしている。園児が必要な時に落ち着けるような場所や体調不良時、相談などに使える部屋があると良いが、空間的に難しい。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		配置基準は満たしている。慌ただしい時間などではお互い声を掛け合う等して協力して進めている。	年度初めにはゆとりのない職員数だったが、新規雇用で現在は各グループ4名体制をおおむね保っている。職種によって不足している状況があり、代替職員を早期に採用する必要がある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		保育室では視覚的に分かりやすいカードやマークを使用している。	バリアフリーでは、エレベーターがないため、2階への移動は抱え等で対応となる。また場所によって手すりが片側のみ、あるいは低い物のみであり、追加の設置を予定している。1月に内線電話が保育室とホールに設置され、連絡がスムーズになり安全確保しやすくなった。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		園児がリラックスしたそうなときに、布団を保育室へ持ち込み対応する。朝夕の保育室等の清掃、消毒、玩具や手すりの消毒を行っている。加湿器は毎日タンクを乾燥させている。	高い所やロッカー等、ホコリが溜まりやすい場所を意識して清掃する。また1階廊下は砂が入りやすいので、清掃をこまめに行い清潔を保つ。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		1週間に一度、各クラスで会議を実施し情報や課題の共有を図っている。毎日の保育においても保育の狙いを明確にし共有している。個別支援計画、月の支援も回覧をしている。	継続して取り組む。また会議や朝礼に不参加だった場合の情報収集について、より適切な閲覧方法や周知方法を検討する。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者当向け評価表を年に一度実施しているほか、別途利用者満足度アンケートの実施や要望により改善に活かしている。保護者会からの要望書も職員で話し合い、ご意見を基に改善に努めている。	利用者満足度アンケートを継続する。また保護者会の要望に対する検討と、回答及び業務改善の取り組みを行う。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			事業所評価を行いホームページで公表する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		西宮市児童通所支援連絡会で相互評価を実施した。	第三者評価の実施を行う。また引き続き西宮市児童通所支援連絡会で相互の評価を行い、業務改善につなげる。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		オンラインも含めて外部研修に参加している。また外部研修報告会や園内学習会を行っている。Zoomも活用し、パート職員も勤務時間以外で視聴できるよう取り組んでいる。その他、外部研修の案内掲示を行っている。	各職員に必要な外部研修の参加を今後も行うとともに、外部研修報告会も引き続き行う。オンライン研修も積極的に活用する。経験年数や必要な知識、技能に応じた研修を選択していく。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者への面談、懇談、アンケートを実施しているほか、担任への聞き取りによるモニタリングを行っている。	年3回の保護者からのアセスメントと懇談を継続する。連絡ノートを活用も継続し、保護者や子どものニーズを把握する。多職種で情報共有し、支援につなげる。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		新版K式での発達検査を実施し、定期的な発達評価と、それを基に保護者との面談を実施している。	心理士の発達検査では新版K式の活用を継続する。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		必要なケースについては記載をしている	児童発達支援計画で具体的な支援方法を挙げ、それに沿った支援を実施している。家庭支援についての設定を強化していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			児童発達支援計画に沿った支援を実施している。内容は担任からの発信や閲覧で共有する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		担任及びグループ配置のパート職員でグループ会議等での保育の検討を行い、プログラムの立案に活かしている。また、ケースによっては全体会議でも話し合っている	グループ会議での検討や職員間での意見交換を今後もプログラム立案に活かしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		他グループの保育を参考にしたり、ビデオを活用した保育検討を行っている。	ビデオを活用した保育検討やグループ会議の内容、職員間での意見交換をプログラム立案に活かしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○			個別活動、集団活動それぞれの状況を踏まえ、児童発達支援計画に活かしている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		パート職員も含め、口頭、ノート等で確認している。留意すべき支援点や役割分担をノートに書き共有している。	送迎添乗で打ち合わせができていない時は日誌や連絡ノートを積極的に活用し情報収集に努める。また経験の浅い職員には要点を明確にすることで理解を図る。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		週一回のグループ会議振り返りや情報共有できている。気付いたこと、迷っていることなど積極的に話すようにしている。	週一回のグループ会議を継続し、細やかな課題や情報の共有を図る。合間の時間も有効に活用する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		担任を中心に日々の記録を行っている。担任会議や月の支援作成に生かしている。	保育に関わった職員での記録を継続する。またビデオでの保育検討を継続し、検証・改善に活かす。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		年3回の保護者懇談の内容も踏まえ、半年に一度程度の児童発達支援計画の見直しを行っている。	今後も保護者懇談で保護者の意見を聞き、また実施状況の確認をすることで児童発達支援計画の見直しに活かす。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		担任を中心に参加し、また児童発達支援管理責任者や役職が必要に応じ参加している。	今後も担任を中心に参加する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		事例は少ないが、虐待の疑いの場合や保護者の状況に気になる点があれば関係機関に連絡することとしている。	必要に応じて関係機関と連携し、情報共有を継続する。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		入園前あるいはそれ以降についても、保護者を通じて確認している。	保護者や関係機関との確認事項はファイル等で職員間の共有を図り、適切な対応ができるようにする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		入園前あるいはそれ以降についても、直接医師と連絡はしていないが保護者を通じて確認している。主治医の指示書通りの対応を取っている。	保護者や関係機関との確認事項はファイル等で職員間での共有を図り、適切な対応ができるようにする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて様子を伝えたり引き継ぎを行っている。	必要に応じ情報共有し連携を図る。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		進学前に引き継ぎを行っている。	必要に応じ情報共有し連携を図る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		児童発達支援センター間での情報共有や研修、また西宮市内の事業所間での情報共有を行っている。	児童発達支援センターや西宮市内の事業所間での連携を継続していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	新型コロナウイルスの影響で予定していた保育園との交流が実施できなかった。	次年度に実施を計画する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			西宮市自立支援協議会子ども部会の参加を継続する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡ノートを活用し、家庭での悩みや出来事など自由記載で担任とやりとりし、寄り添う支援を行っている。また毎月の支援のまとめをお配りしている。	今後も連絡ノートの活用を継続する。毎月の支援内容のまとめの活用も継続する。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		ペアレントトレーニングのほか、保護者学習会、発達相談、療育相談を行っている。	保護者学習会、ペアレントトレーニング学習会、発達相談、療育相談を継続する。保護者学習会ではニーズに合わせた内容を検討する。感染対策としてオンラインでの実施も検討する。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に利用者負担について説明を行っている。	契約時の説明の継続、及び、いつでも確認できるよう掲示をする。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		年度当初に説明し同意を得ている。変更があった際にも同意を得ている。	今後も年度当初や必要時の同意を継続する。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的に個別懇談、発達相談を実施している。また保護者からだけでなくこちらからも声をかけている。連絡ノートの活用や保護者来園時にもやり取りしている。担任での返答が難しい場合は上司や専門職と協力している	定期的な個別懇談、発達相談を継続し、必要な助言や支援を行う。職員間でも必要な情報共有を図り、できるだけ適切な助言につながるよう努める。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		今年度は新型コロナウイルスの影響で保護者会の開催が例年通りできなかった。保護者懇親会に職員が参加した。	引き続き保護者会活動を支援するためコミュニケーションを図り、連携していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		必要に応じて児童発達支援管理責任者や心理士、相談支援専門員など、適宜対応を図っている。	相談や質問には迅速に対応し、また適切な担当者に引き継ぐなど連携して取り組む。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		園だよりを毎月発行し、行事予定や学園の様子などを発信している。	園だよりの発行を継続し、情報を発信する。またそれ以外にもメールや配布物で速やかな情報伝達に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		写真使用については保護者に同意を取るとともに、必要に応じた使用に配慮している。	写真使用の同意を継続する。また行事時の写真撮影は保護者にも注意喚起を継続的に行う。連絡帳の入れ間違いには十分注意し、発生した場合は速やかに職員間で周知を図る。一斉メール送信では「BCC」に設定することを徹底する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		園児の特性に応じたにわかりやすい伝え方を考えるようにしている。保護者にはメールや電話等適した方法で伝達している。	園児の特性に応じた意思疎通の方法について職員で検討を行う。保護者への連絡は電話、メール、配布など内容に応じた適切な方法で伝える。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		新型コロナウイルスの影響で行事が例年通りできなかった。周辺地域ではないが、放課後等デイサービスにプールを貸したりしている	地域性、防犯上の観点から制約はあるが、可能な内容を検討していく。プール等の設備の開放を通じて他事業所への貢献にも努めていく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		マニュアルの策定を行っている。火災対応訓練を月1回、不審者対応訓練は年6回、地震対応訓練を年1回実施している。火災避難訓練は時間帯を指定せず抜き打ちで行うこともある。感染対策の学習会は年2回実施している。	マニュアルの適宜の見直しを図る。定期的な訓練を計画的に実施する。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		地震対応訓練を年1回実施している。また地震や大雨の図上訓練も行い、対応を考える機会を設けている。	引き続き計画的に各訓練を実施する。図上訓練も継続し、緊急時のイメージを持つ機会を持つ。送迎時のパート職員への詳しい訓練やタクシー会社と協力した訓練を検討する。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		入園前のアセスメントで確認している。家庭で発作があった翌日や、連絡帳に保護者が健康面について記載があれば、看護師と保育士で共有に努めている	個別の状況を確認し情報を共有する。入園前に確認し、必要に応じて受診を依頼する。日々の健康面の情報共有についても看護師を中心に。必要な医療的知識の研修も行う
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		アレルギーガイドラインを基に対応している。栄養士とも連携している。	今後も医師の指示書に基づいて支援する。また日常や緊急時の対応を情報共有し、必要に応じた学習会を行う。アレルギーの可能性のある食材は家庭での摂食状況について確認していく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		事故報告書にて当日中にまとめ、遅くとも翌日の支援までに周知を行っている。ヒヤリハット事例についても翌日の朝礼と日誌で速やかな共有を行っている。今年度、過去の重大事故について、経験の浅い職員にも共有する機会を設けた。	事故報告書の閲覧、ヒヤリハット事例の報告を活発に行う。日誌など、確実に周知できる方法を用いて取り組みを継続する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止委員会を開催し報告書の閲覧を行っている。また接遇チェックで毎月振り返りを行っている。年2回、接遇や虐待防止に関する検討会を行っている。今年度はパート職員にも積極的に参加を働きかけた。外部研修参加および園内研修を実施している。	今後も虐待防止委員会の実施と接遇チェック、虐待防止に関する検討会を継続する。また外部研修参加と園内研修を継続し、虐待防止に努める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		契約時に説明している。児童発達支援計画に記載し、身体拘束実施があった場合は記録を残している。虐待防止委員会にて身体拘束について検討を行っている。	身体拘束を行わない支援や方法を職員間で検討する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。